

# 権利擁護／虐待防止

## 事例検討編①

②「顕在化」している虐待行為」と「潜在化している虐待行為」

# この教材のねらい

今回、配信する教材はある一つの事例を使って、さまざまな視点から考えて「虐待行為」について理解を深めていくものである。

この教材は、顕在化している虐待行為の背景には潜在化している虐待行為があることに気がつくことをねらいとする。

## 事例(ある職員Aさんの声)

居室訪問をしたら、便失禁をしている利用者Bさんがいました。リハビリパンツを脱ごうとしたのか両手は便まみれになっていて、服や布団、ベッドや床など本人が触ったところがベタベタに汚れていました。

急いで本人についた汚れを拭き取って着替えさせようとしてしました。その際に爪で引っかかれたり、髪の毛を引っ張られたり、時折足も出て蹴りもありましたが、それでもやり返すことはせず、Bさんの腕を掴みながら必死でなんとか陰部清拭と着替えを行いました。

ただ、「痛いって！やめて！こらっ、おとなしくしなさい！」と言いながらBさんを押さえつけているところを主任に見られてしまいました。

さらにBさんの腕を押さえつけた時にBさんの腕に内出血ができてしまいました。

# 事例(続き)

主任に、ヒヤリハット報告書を書くようにと言われましたが、その時に主任から「ちゃんときちんと声かけしたの?」「本人が嫌がっているのに無理やり着替えさせたの?」「相手は認知症なんだから、少々のは仕方ないことだからね」「〇〇さんも無理矢理やられて、きっと怖かったんだろうと思うよ。それって、専門職としてどうなの?」と責められました。

ちゃんと声かけしてからやったつもりです。それよりも主任の言うとおりにしていたら、便だらけになってるのに、嫌がられたらきれいにしてあげることも着替えもしてあげずにほっとけということなのかと勝手に思います。

そのくせ少しでも対応が遅れたら遅れたで「なぜちゃんと見なかった?」と責めるのに。

利用者さんに対する暴力は絶対いけないけれど、私たち職員のことでも大事に思ってくれるような職場じゃないとやってられないです。

個人ワーク(10分)

職員Aさんはどのような虐待をしたと  
思いますか？

職員Aさんがしたと思われる虐待行為について、整理しましょう。

1)「顕在化している虐待行為」は  
何だと思いますか？

2)「潜在化している虐待行為」は  
何だと思いますか？

## グループワーク(10分)

3)この事例から、見えない虐待行為について話し合ってみましょう。

## 個人ワーク(10分)

4) ワークシートに「潜在化している」虐待行為を記入しましょう。

# この教材を終えるにあたって

虐待行為は、個々の職員の意識と職員間のコミュニケーション不足が増えていく過程の中で起きていくものだと考えられます。

「忙しいから仕方がない」とするのではなく、「忙しい時はどうすればよいのか」と日頃からみんなで考えておくことが、虐待行為の防止につながることをしっかりと認識しなければなりません。

お疲れさまでした。

教材作成

北海道総合福祉研究センター  
理事長 五十嵐教行